



新春の

お慶びを

申し上げます



そら豆

そら豆は 空に向かって 豆がなります。また 腎臓の形は そら豆に似ています。

発刊:  
済生会今治病院  
透析センター

代表:  
透析センター長  
美馬 敦

患者数:  
183名 (1/3 現在)

もちものためにごきげんや

昨年コロナウイルスの蔓延が継続しました。5類に移行しましたが、ワクチン接種をされてない方は、症状が重症化・長期化しているように思います。これからも情勢をみながら、適切な感染対策を行っていきたく思っています。また、新年早々津波を伴う災害の発生もありました。今一度、災害に対する認識を強化し、今後に活かしていきたいと検討しています。

本年も皆様のご理解とご協力を

よろしくお願い致します



昨年11月12日に当院

透析センターにて防災

訓練を開催しました。30

人以上の方にご参加い

ただきました。4年ぶり

の開催となったことも

要因かもしれません、

皆さんの災害意識の高

まりを感じました。

今後は年に一度は開

催したいと思っていま

す。今まで参加されたこ

とがない方は次年度の

訓練にぜひ、ご参加ください。

近年、南海トラフ地震が30年以内に80%の確率

で起こるといわれています。これは30年後の話では

ありません。明日にも起こる可能性があるというこ

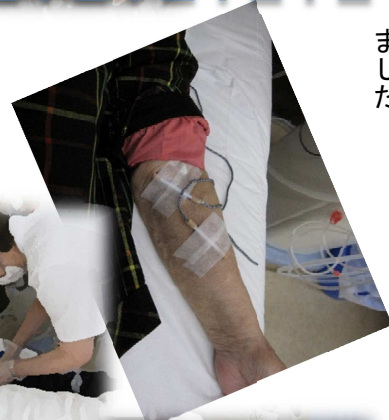
とです。また、記憶に新しいところでの、西日本豪

雨災害では、愛媛県でも被害があり南予地方では透

析が出来ない施設もありました。



今回の透析防災訓練では「見て・聞いて・やって  
みて」実際に体験を通して不安の軽減を図れるよう  
に患者様に体験して頂きました。また、スタッフも  
実際の緊急離脱と避難誘導の練習をさせていただきました。



実際に参加した患者様には、ベッドで寝て待機し  
てもらい、いつも通りの場所に針を刺す代わりにス  
トローで作成した擬似針を装着させて頂きました。  
地震が起きた想定で進めさせて頂き、地震対応姿勢  
と緊急離脱を体験していただきました。その後、透  
析室からの4つの避難経路を実際に歩いて確認。当  
院の災害対応の取り組みを紹介し、最期に質疑応答  
で多くのお言葉を頂きました。

こちらから避難  
します。  
あわてず移動し  
て下さい。



① 地震時の防御姿勢

ベッドはキャスターロックでベッドごと揺れるようになっています。これはベッドから振り落とされにくいという検証結果に基づき対応しています。

コンソール（機械）はロックしておらず、免震のように揺れに同調して動くことにより倒れにくいとの評価があります。

ただし、ベッドとコンソールが離れる可能性があるため、揺れが起こった場合は必ず透析回路を握って抜けないように対応してください。また天井からの落下物対策で布団を頭からかぶって保護するようにしてください。



② 緊急離脱の種類と方法

A 『時間的余裕があり、いつも通り終了し針を抜いて移動できる場合』

B 『緊急性があり、針だけ残して終了し移動しないといけない場合』

Bは回路に血液を200〜300ml残す方法となり、最短の緊急離脱方法ですが、貧血や血圧低下が起こるリスクがあります。

災害の規模や被害状況により、離脱決定・避難経路は災害本部の指示となります。迅速に落ち着いてスタッフの指示に従い、避難行動をとります。災害規模や状況によって使用する避難経路は変わります。

③ 透析センターの災害対策

1. 災害カード
2. 赤いシールを貼った体重カード
3. 緊急連絡先確認
4. アクションカードの活用

以上の4つ項目があります。1. **災害カード**は被災したとき、他院で安全に透析を行えるように、月初めの透析条件や注射などの情報を記載しています。

2. **赤いシール**は避難の時に一人で逃げられない方の印です。透析スタッフ以外の職員が救助に来た時の目印となります。3. **緊急連絡先**は災害時の緊急連絡として紙ベースで保管しており、適宜変更がないか確認しています。4. **アクションカード**は災害時にスタッフが冷静に判断できるためのツールとなっています。また、被害状況などを報告しやすいようにまとめてあります。

④ 質疑応答・訓練後の振り返り

多くの方から質問や感想を頂戴しました。例えば、「津波を想定した避難訓練を実施して欲しい」「もっと訓練の回数を増やして欲しい」等ありました。また、今後の情報提供としてSNSの活用を検討している旨を伝えました。今後も『患者様のもしも！』の不安解消のために情報発信、避難訓練などを実施していきたいと思っています。

最後に、防災訓練にご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。これからの予防や心構えにつながっていく事を期待し、スタッフ一同、今一度、気を引き締めて行動を振り返りたいと思います。

災害チーム

「いつもと違う？」

や思ったより



シャントは透析治療を行う上で命綱と言われています。そのシャントが「狭くなる」「詰まってしまふ」「赤く腫れて痛い」などのいつもと違う状態があると透析が行えないだけでなく、重篤な合併症を引き起こし入院を余儀なくされる可能性があります。それらに逸早く気付けるのは患者様自身となります。毎日の観察をぜひ後記を重点的に行って下さい。

● スリルの確認

シャントの流れの振動の確認を手で触れる

● シャント音の確認

シャント部に聴診器を当てると「ザーザー」「ゴーゴー」というような低い音が聞こえます。音の変化はいつも聴いていると気付くやすくなります

● 皮膚・血管の状態の確認

感染は主に針を刺した部位に起こります。針を刺す辺りを清潔にし観察することで、細菌の繁殖を抑制し、赤くなる・熱っぽい・痒いなどの症状を起こす前に気付く事ができます

いつもと違うと気付いたら

気付いた時に病院に連絡をください

早期対応で重症化を避けられる事があります。発熱だけでも自己判断せず、まず連絡してください